



首都大学東京 次期学長予定者の決定について

1 次期学長予定者

原島 文雄（はらしま ふみお）（68歳）
（東京電機大学教授、同大学前学長）

2 選考理由

- （1）氏が、大学運営に関して示された、大都市課題に対応する重層的な人材育成、国際化の推進、多様な主体との連携の拡充等については、本学の基本理念とこれからの目指すべき方向に、まさしく合致するものであり、本学の現状や取り組むべき課題を十分認識していること
- （2）氏は、人格が高潔であることはもとより、次世代を担う人材を育成する上で、大学における教養教育等に関する造詣が深く、その重要性を十分に認識しているとともに、ロボット工学に関する研究等の分野で世界的な研究リーダーとして活躍するなど、教育・研究の高度化や国際貢献に対して優れた識見と業績を有していること
- （3）氏は、これまで複数の大学の学長職を経験する中で、大学のトップとして、新たな視点から様々な大学改革を、自ら先頭に立って実践してきた。また、氏は、大学運営にあたり、全構成員の間に大学の将来に対する共通認識と様々な意見や価値観に対する相互理解を育んでいく組織風土づくりが肝要であると強く認識している。

こうした強いリーダーシップと公平無私な資質を有する氏は、本学の更なる発展に大いに寄与する適材であること

3 就任日・任期（予定）

平成21年4月1日（任期4年：平成25年3月31日まで）

4 任命

公立大学法人首都大学東京定款第12条により、首都大学東京学長選考会議（以下「学長選考会議」という。）の選考に基づき、理事長が任命する。

5 選考経過

- （1）第1回学長選考会議を開催し、議長を選出した後、学長の選考方法や任期等について意見交換。次期学長に求められる資質等について検討（平成20年11月10日）
- （2）第2回学長選考会議を開催し、「首都大学東京学長選考会議運営内規（案）」及び「首都大学東京学長の任期に関する規則の内容（案）」について審議・決定。次期学長に求められる資質等の検討を引き続き行うとともに、候補者として考えられる人物について、さらに資質、適性等を見極めるため、選考会議に招聘し、大学運営に関する基本的考え方等を聴取することを決定（平成20年11月17日）
- （3）第3回学長選考会議を開催し、選考会議の議長が原島氏を招聘。大学運営に関する基本的考え方等を聴取した後に、議長が聴取内容を踏まえ、原島氏を学長候補者に推薦。審議の結果、同氏を学長予定者に選考することを決定（平成20年11月27日）
- （4）第4回学長選考会議において、公表方法について決定（平成20年11月28日）

問い合わせ先
公立大学法人首都大学東京
経営企画室広報担当課
総務部総務課
首都大学東京管理部学長室
連絡先（直通 03-5320-7080）

首都大学東京 次期学長予定者略歴

原島 文雄 (はらしま ふみお)



現 東京電機大学 未来科学部 教授
(同大学前学長)

○生年月日 昭和15年2月3日

○年 齢 68歳

○学 歴

昭和37年3月 東京大学工学部電気工学科卒業
昭和42年3月 同大学院工学系研究科電気工学専攻博士課程修了 工学博士

○職 歴

昭和42年4月 東京大学生産技術研究所 助教授
昭和55年8月 同 上 教授
平成 4年4月 東京大学生産技術研究所所長 (～平成7年3月)
平成10年4月 東京都立科学技術大学 学長 (～平成14年3月)
平成12年4月 東京大学 名誉教授 (～現在)
平成14年4月 東京電機大学 教授 (～現在)
平成16年6月 東京電機大学 学長 (～平成20年6月)

○研究 歴

昭和42年 パワーエレクトロニクスに関する研究 (～現在)
昭和42年 制御工学及びメカトロニクスに関する研究 (～現在)
昭和55年 ロボット工学に関する研究 (～現在)
平成 2年 インテリジェント メカトロニクスの研究 (～現在)
※上記分野で世界的に研究リーダーとして活躍。学会活動においても国際的に指導的立場にある。

○受 賞 歴

平成 2年 計測自動制御学会 Fellow
平成 5年 電気学会 産業応用特別賞
平成12年 IEEE Third Millennium Medal
平成15年 電気学会功績賞
平成17年 教育功労賞オフィシエ (フランス共和国)、日本ロボット学会 Fellow ほか多数

○学会及び社会活動

昭和61年 IEEE Industrial Electronics Society, President (会長)
平成10年 日本ディスタンスラーニング学会 副会長、高速信号処理応用技術学会 会長
平成13年 電気学会 会長、Editor-in-Chief IEEE Transactions Industrial Electronics
平成17年 日本学術会議 会員 ほか多数